

「コーチング」を問い直す

荒井 英治郎 (信州大学学術研究院総合人間科学系)

1. はじめに

本稿は、2020年度に開講した教職科目(選択)「現代社会と教育問題」(2020年11月17日)の授業にオンラインゲストとしてご参加いただいたゲストティーチャー(内藤睦夫氏: スクールカウンセラー、「教と育」研究所代表)の講演内容を再構成したものである。記録作成に当たっては、本学の学生に尽力いただいた。記して感謝を申し上げたい。

2. ゲストティーチャーの話

(1) 自己紹介

【ゲスト】内藤睦夫と申します。長野県の教員をしていました。定年退職して、スクールカウンセラーになり2年が経ちました。

今日の授業のテーマは「コーチングを問い直す」です。世の中には様々なコーチングがありますが、今日は私が学んでいる教育に特化したコーチングについて学びを深めていきたいと思います。

(2) 問い直すとは

【ゲスト】「問い直す」の意味については色々考えられますね。例えば、現在教育の世界でコーチングがスタンダードになっているとすれば、「本当にコーチングには意味が

あるのか」と批判的に問い直すことができます。もし、コーチングが教育現場で広がっていないということであれば、「コーチングの価値とは何か」と積極的に問い直すこともできると思います。

このように色々な問い直し方がありますが、今日はコーチングを良い面から考えたり、コーチングに対する疑問点を掘り下げたりしながら、自由に問い直していけたらと思います。

(3) コーチングとは何か

【ゲスト】それでは皆さんの考えをお聞きしていきましょう。はじめに「コーチング」とは何でしょうか。自分なりに理解しているコーチングについて、スプレッドシートに書き込んでください。

みなさん、よく理解されていますね。いつ、どこで、どのように学んだのですか。

【学生】私は教育実習に行った時、特別支援学級や相談係の先生方からお聞きしたお話をもとに書きました。

【ゲスト】ありがとうございます。皆さんの意見を見ていると共通している内容がありそうですね。何かを生徒にさせるということではなく、「引き出す」、「他者の潜在的な力を信じる」、「行動を促進する」といったキーワードがあるようです。

2010年に「児童心理」という雑誌の中で、「コーチングを問い直す」という特集が組まれていました。その中で本間正人先生は、コーチングとは「人間の持つ可能性を信じる。その可能性を傾聴・質問・承認などのコミュニケーションスキルによって引き出すこと」と、おっしゃっています。また、小山英樹先生は『傾聴・承認・質問』の姿勢でかかわることで自立を支援するコミュニケーションではあるが、重要なのはやり方ではなく『あり方』である」と、まとめられています。

書き込みや発表から、コーチングの概要については皆さん理解して頂いていると思います。コーチングは深いものですので、探究していただけたらと思います。

(4) コーチングは教育の役に立つのか

【ゲスト】次に皆さんにお聞きしたいのは、コーチングが教育の役に立つのかということです。「コーチングは教育の役に立つ」ことを前提に話を進めたいと思いますが、「教

育の役に立つ」ということは一体どういうことでしょうか。皆で共有しましょう。

【学生】私たちは信頼関係が大切であるという話をしていました。コーチングをしていく中で、子どもたちがいかに自分で考えて行動できるか、そして、それを教師が後押しできるかが大事なのではないかと思いません。子どもたちが自分で考え行動することは、教育の最終目標であると言えるのではないのでしょうか。

また振り返りの大切さについても話し合いました。自分で考え行動していくために、自らを振り返り、教師との対話が生まれることで、それが信頼関係にもつながっていくのではないかと思います。

【学生】私たちは教育の目標とは何かという話をしました。私とペアの方と、それぞれ意見が違ったので話し合いが深まりました。私は教育を通して学力を習得することが大事なのではないかと考えています。専門知識を習得する上で、教育の役に立つとはどういうことだろうかと考えた時に、私は大学の実験で、主体性をもって取り組むことの大切さを痛感しています。

ペアの方は教育が「子どもがやりたいことを実現できる場」であってほしいとおっしゃっていました。そのため教育は人間性を育てることに役立つのではないかと思います。

【学生】教育の役に立つとは何かと考えると、非常に幅が広いと感じました。その中で私たちは2つのことについて話し合いました。1つ目は「生徒の自主性を引き出す」と

「コーチング」を問い直す

ということです。例えば、動物の飼育や、学級内の係活動を通して、責任感や自分から行動する力を養うことができるのではないかと思います。

2つ目は「生徒のやりたいことに気づかせる」ということです。世の中にはどんなことがあるのか知らないと行動できなかつたり、能力を発揮できなかつたりすると思うので、周りがその生徒の視野を広げていけるよう努めることで、生徒がやりたいことに気づけるのではないかと思います。

【ゲスト】 素敵な探究と発表をありがとうございます。「教育の役に立つ」ということの1つに、「教育の抱える問題を解決することができる」ということが挙げられます。今様々な教育問題がありますよね。いじめ、不登校、ひきこもりなど、時代によって変化する問題もありますが、そういう問題を解決するためにコーチングは役に立つと私は考えています。

さらに、VUCA な時代を生きていく子どもたちに主体性、対話力、メタ認知力といった力を育んでいくことが教育の大きな役割になっていますが、こうした力を育むためにもコーチングは役に立つと考えています。

新学習指導要領には、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」という3つの柱があります。「何ができるようになるか」の中に、「学びに向かう力・人間性」、「生きて働く知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」が入っています。そして、図の中心には、「よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の作り手となるために必要な資質・能力を育む」と

いうことが書かれています。何のために教育をしているのかと問われたら、この中心に書かれていることを実現するためと言えますね。

新学習指導要領は今年度は小学校、来年度は中学校、そして高校と全面実施されていきます。今回の改訂の特徴は、「どのように学ぶのか」という学び方が示されていることです。「主体的、対話的な深い学び」のことです。教育現場でもこの学び方が大切だと共感する人はとても多いです。

「主体的対話的な学び」の過程を創り出していくことは大切ですね。さらに、「主体的対話的な学び」によって「教科としての力」が習得できるようにすることも大事です。学生にとって教科の専門性の探究は大事ですが、学んだ専門性を一方的に教えるだけの授業では教科としての力をつけることは難しいと思います。「主体的対話的な学び」の過程を通して、力をつけていくことが重要です。

(5) 「主体的対話的で深い学び」のために コーチングは役に立つのか

【学生】 自分自身を見つめるということは「主体的対話的で深い学び」の主体的な要素になり、コミュニケーションは対話的な要素になるのではないかと思います。そして、子どもたちが「主体的対話的で深い学び」ができているのかを見るためにも、教師の振り返りが重要なのではないかと思います。

【学生】 子どもに働きかけ促すといったことが、主体性につながるのではないかと思います。

います。例えば、生徒の考えを引き出して授業を展開していくことや、生徒の能力を引き出して生徒にそれを気づかせるといったことが考えられます。また生徒の好奇心を膨らませ、学ぶ楽しさを共有することも重要なのではないのでしょうか。

一方、コーチングは技術がないとできないのではといった意見や、教師の力量でコーチングの質が変わってしまうのではないかとといった疑問点も挙がりました。

【学生】私たちは主体的対話的で深い学びにコーチングは役立つということを念頭に話し合いをしました。生徒の意見を引き出すことや、教師との対話、また一人では学べないものをコーチングで学ぶことで主体的対話的な学びはできるのではないかと思います。そして深い学びに関しては、教師との対話、生徒同士の対話で生かしていけたら、それは深い学びと言えるのではないかと考えました。

一方で、教師が生徒に働きかけるときに誘導してしまうのではないかとという声が挙がりましたが、誘導してしまうことはコーチングになっていないのではないかとという結論に至りました。

【学生】コーチングが教育の役に立つ点としては、コーチングを通して生徒が自分で考えていくことができ、子どもの興味関心を引き出すだけでなく、子どもがやりたくないことに対してやるべき理由を見つけることができるといったものが挙がりました。

一方、疑問点としては、コーチングは支援であって生徒に教師なりの答えを教えるは

いけないのか、コーチングが合わない生徒もいるのではないかとといったものが挙がりました。

(6) 教師に求められるあり方・役割

【ゲスト】先程の疑問点と重なると思いますが、教師に求められる役割は「コーチ」だけではないと考えています。教師にとって「教える必要があることは教える」という「ティーチャー」の役割は大事ですよ。ただ、今までは教えることに比重がかかりすぎていたのではないかと思います。日本の教育は100年間あまり大きな変化をしていません。教師は教壇に立って導く人という捉え方が強いと思います。ティーチャーの役割は大事ですが、別の役割を意識することが大事だと思います。

教師にはカウンセラーの役割も大切ですね。子どもの話をしっかりと傾聴して、一人ひとりの子どもが持っている発達課題を理解して支援する教育カウンセラーとしての役割です。

コーチは子どものやる気や能力を信じて引き出す人です。この関わりはとても大事ではないかと思います。

学級づくりにおいてはリーダーとして、先生が先頭に立ってほしい場面もありますね。リーダーの役割は大事です。しかし、子どもたちにとって、先生に引っ張られているだけならば主体的な力はつきません。

ファシリテーターの役割はどうでしょうか。一対一のコーチングから、一対集団のファシリテーターとしての役割もすごく必要になると思います。誘導するのではなく、その集団の活動を促進していく、巻き込んで

いくということですね。

フォロワーは支える人ですね。子どもたちが主役で、先生はフォロワーとして応援するという役割もありそうですね。

メンターは尊敬できる先輩です。先生が生徒にとってこういう存在になれば嬉しいなと思っています。

(7) まとめ

【ゲスト】 今日色々なことを皆さんと学んできましたが、「答え」があるわけではありません。答えは皆さんの中にあります。教育現場に出て、そこで出会った多くの先生たちと意見を交わしてみてください。教育カウンセリングやコーチングなどを学んで、「子どもを信頼する」、「子どもの力を信じる」、「一言言いたくなくてもまず聴いてみる」といったコーチングマインドやスキルを身に付けて行って下さい。

今日は一緒に学ぶことができて楽しかったです。ありがとうございました。